

証券コード:9107



株主通信

第158期 中間報告書

2025.4.1 ▶ 9.30





社長メッセージ

自社と社会の低炭素・ 脱炭素化を機会とした 成長戦略実現と 企業価値向上に 取り組んでいます。

代表執行役社長 CEO
五十嵐 武宣

株主の皆さまには、平素から格別のご高配を賜り、厚く御礼を申し上げます。

当中間連結会計期間(2025年4月1日から2025年9月30日まで)における事業活動の結果、今後の見通し及び当社の事業の取組みについてご報告申し上げます。

事業環境及び事業の概況について

当社の事業環境は、米中対立や中東情勢、ロシア・ウクライナ情勢など地政学的リスクに加え、世界経済の減速懸念、各国の通商・エネルギー・環境政策の不透明さなどから、不確実な状況が続いています。当社は変化の激しい事業環境においても果敢に成長の機会を捉え、機動的かつ的確に事業を進めています。

当期の業績及びセグメント別の状況を2~4ページに掲載していますのでご参照ください。

持続的成長と企業価値向上に向けて

当社は中期経営計画に基づき、成長を牽引する役割を担う鉄鋼原料、自動車船、LNG輸送船の3事業に経営資源を重点的に配分し、収益基盤の強化を進めています。さらに、LNG燃料船隊の拡大など自社の低炭素・脱炭素化を進め、社会の低炭素・脱炭素化を事業機会と捉えて液化CO₂輸送船の船舶管理を拡大するなど、持続可能なエネルギー社会実現に貢献する取組みを行っています。

こうした事業戦略の着実な推進に向け、当社の強みである「安全・船舶品質管理」「環境・技術」「デジタルトランス

フォーメーション」という3つの機能とそれを支える「人材・組織」を強化し、事業活動を支える強固なガバナンス確立のために指名委員会等設置会社に移行しました。各事業と当社が持つ機能・ノウハウを掛け合わせたエリアで事業を強化することで、持続的成長と企業価値の更なる向上に取り組んでまいります。

中期経営計画の進捗、資本政策及び株主還元について、5～6ページでご報告していますのでご一読ください。

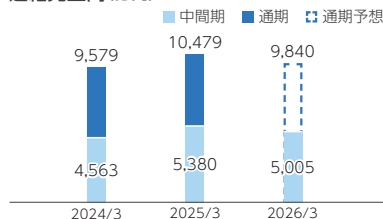
株主の皆さまへ

当社には「K LINEスピリット」、すなわち「進取の気性」「自由闊達」「自主独立」の姿勢が脈々と受け継がれています。さらに、複雑に変化する事業環境においても、変化を恐れず行動する勇気と情熱、リスクと機会を冷静に見極める力、そして果敢に挑戦するアニマルスピリットを持って、従業員一人ひとりが大胆かつ粘り強く取り組んでまいります。

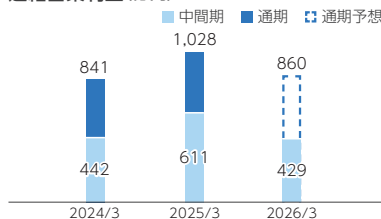
株主の皆さまのご期待にお応えすべく、今後も持続的な成長と企業価値向上への挑戦を続けてまいります。変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

決算ハイライト

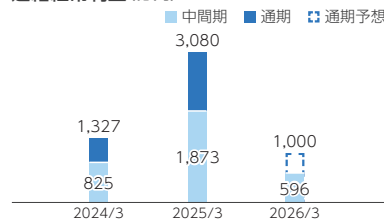
連結売上高(億円)



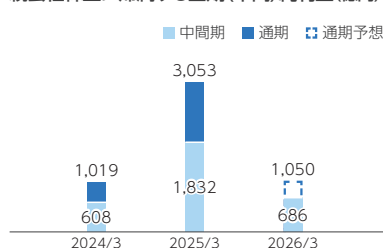
連結営業利益(億円)



連結経常利益(億円)



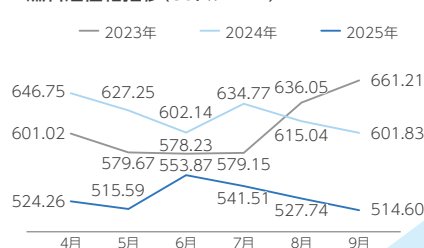
親会社株主に帰属する当期(中間)純利益(億円)



為替推移(円/USドル)



燃料油価格推移(USドル/MT*)



*金額の記載については、億円単位で表示しているものは億円未満を切り捨てています。

*本ページ以降の2024年3月期の数値は、会計方針変更による遡及適用後の数値を記載しています。

*MT:メトリックトン(1メトリックトンは1,000キログラム)

セグメント情報



ドライバルクセグメント

売上高構成比
28.4%

運ぶもの

鉄鉱石、石炭、穀物、製紙原料等

ドライバルクセグメントは、鉄鉱石や穀物等の原材料をばら積船で輸送するドライバルク事業により構成されています。



エネルギー資源セグメント

売上高構成比
9.8%

運ぶもの

LNG、LPG、電力炭、原油等

エネルギー資源セグメントは、LNG（液化天然ガス）、LPG（液化石油ガス）、電力炭、原油の各エネルギー資源等の海上輸送を担う事業と、石油や天然ガスを探鉱、開発、生産する際の物資の輸送や、掘削、生産そのものを支援する海洋事業から構成されています。



製品物流セグメント

売上高構成比
60.7%

運ぶもの

自動車、旅客、衣類、家具、電化製品、食料品、自動車部品、原料素材等

製品物流セグメントは、乗用車やトラック、建設機械等を輸送する自動車船事業、航空運送、内陸運送、倉庫業、ターミナル等の物流事業、近海・内航事業、そしてコンテナ船事業統合会社ONE社*を通じ、多種多様な貨物を世界中に展開する航路網により輸送するコンテナ船事業から構成されています。

* OCEAN NETWORK EXPRESS PTE. LTD.

中間期の概況

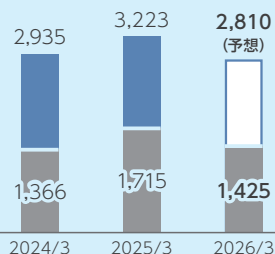
- 大型船市況は鉄鉱石・ボーキサイトの堅調な荷動きが継続し、概ね堅調に推移しました。
- 中・小型船市況は7月以降、南米穀物や石炭の荷動き増加で回復しました。
- 市況エクスポージャー管理とコスト削減・配船効率化に努めるも、前年同期比減収減益となりました。

通期見通し

輸送需要は概ね堅調な見込み。地政学的リスクや通商政策の影響を注視しつつ、運航効率改善・中長期契約の上積みで安定収益拡大と収益最大化に努めます。

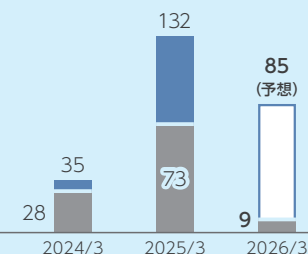
売上高(億円)

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



セグメント利益(億円)*

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



中間期の概況

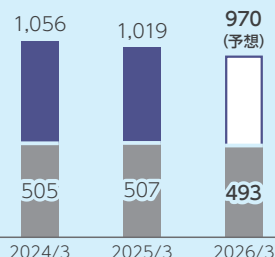
- LNG船、LPG船、電力炭船、大型原油船、ドリルシップ(海洋掘削船)、FPSO(浮体式石油・ガス生産貯蔵積出設備)等は、中長期の備船契約のもとで順調に稼働し、安定的に収益に貢献しました。
- 為替影響等により前年同期比で減収となるも、前期に生じた一過性要因の解消等により増益となりました。

通期見通し

中長期契約に支えられて順調な収益を見込んでいます。引き続き安定収益の確保に努めます。

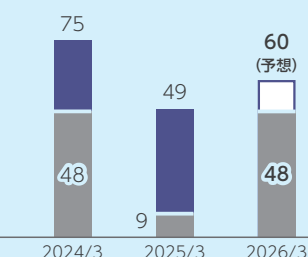
売上高(億円)

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



セグメント利益(億円)*

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



中間期の概況

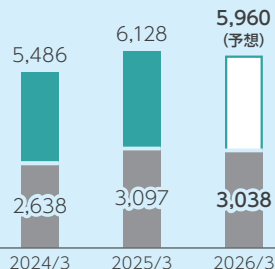
- 自動車船事業は、米国向け追加関税発動も各国の需要に支えられ堅調に推移しました。
- 国内物流・港湾事業、国際物流事業、倉庫事業、完成車物流事業、近海事業は堅調に推移しました。
- コンテナ船事業では短期運賃水準が伸び悩み、ONE社の業績は前年同期比で減収減益となりました。

通期見通し

自動車船事業では、各国の通商政策や政治・経済情勢、特に米国の関税政策の影響を注視しつつ、船隊適正化、運航・配船効率の更なる向上に取り組み、物流事業は、概ね堅調な推移を見込みます。コンテナ船事業は情勢変化を注視し、着実な事業運営に努めます。

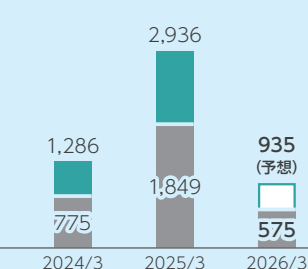
売上高(億円)

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



セグメント利益(億円)*

■ 中間期 ■ 通期 □ 通期予想



* 2025年3月期は、為替差損益の配賦手法変更後の数値を記載しています。

資本政策の進捗と企業価値向上に向けて

中期経営計画に基づき、「稼ぐ力」の強化を進め最適資本構成とキャッシュアロケーションを意識し
資本効率と財務健全性を維持し更なる企業価値の向上に努める



中期経営計画の詳細につきましては、こちらをご参照ください。
<https://www.kline.co.jp/ja/ir/management/strategy.html>



【株主還元政策】

中計期間の還元総額8,000億円以上、2025年度の年間配当予定120円/株
公表済の500億円以上の機動的な追加還元に関しては中計期間中(2026年度まで)に実施

中計期間の還元総額予定

8,000億円以上
(25年8月公表比変更なし)

配当予定

2025年度
120円/株
(中間・期末、各60円/株)
(25年8月公表比変更なし)

2026年度
100円/株
(25年8月公表比変更なし)

更なる機動的な追加還元

事業環境を踏まえて、5月に公表した中計期間中の500億円以上の機動的な追加還元手法は引き続き検討中

		実績		計画	
		21～23年度	24年度	25年度	26年度
1株当たり株式への配当及び追加還元	機動的な追加還元		752億円	事業環境を踏まえて還元方針に基づき足元から検討 500億円以上の機動的な追加還元	
	自己株式取得		908億円	120円/株	100円/株
	追加配当		60円/株	80円/株	60円/株
	基礎配当		40円/株	40円/株	40円/株
還元総額*	自己株式取得		1,700億円	500億円以上 機動的な追加還元	
	追加配当		700億円 (100円/株)	800億円 (120円/株)	600億円 (100円/株)
	基礎配当				
	還元総額	3,700億円	2,400億円	1,900億円以上	
		中計期間の還元総額：8,000億円以上			

* 還元総額は概数(10億円単位を四捨五入)で記載しています。

中計期間
還元方針

業績動向を見極め、最適資本構成を常に意識し企業価値向上に必要な投資及び財務健全性を確保のうえ、適正資本を超える部分についてはキャッシュフローを踏まえて積極的に自己株式取得を含めた株主還元を検討

TOPICS 1

Northern Lights社向け液化CO₂船 “NORTHERN PATHFINDER”命名式を開催

2025年6月17日に、ノルウェー・オスロにおいてNorthern Lights JV DA(以下、「Northern Lights社」)^(注1)向け新造液化CO₂船“NORTHERN PATHFINDER”(ノーザンパスファインダー)(以下、「本船」)の命名式が執り行われました。本船は当社グループが船舶管理を受注した3隻のうち2隻目となります。式典にはノルウェー教育大臣、Northern Lights社 社長をはじめプロジェクト関係者や政府関係者が招待され、当社からは取締役会長の明珍幸一が出席しました。

また、同日から2日間にわたり、ノルウェーエネルギー省主催による“Longship”プロジェクト^(注2)の正式始動を祝う

記念イベント“Longship Launch Event”が開催され、18日にはノルウェー王室、政府及びプロジェクトの関係者を本船にお迎えしました。

世界初の本格的な二酸化炭素回収貯留(CCS)バリューチェーンプロジェクトに従事する本船は、当社のロンドンを拠点とする子会社“K” LINE ENERGY SHIPPING (UK) LIMITEDが船舶管理を引き受け、ノルウェーのCO₂回収施設から同国西部のオイガーデン(Øygarden)にあるNorthern Lights社の受入基地まで液化CO₂を輸送します。

本船は、2024年12月27日に大連船舶重工集団有限



命名式の様子

(左) “K” LINE ENERGY SHIPPING (UK) LIMITED “NORTHERN PATHFINDER” Hroar Skofteby 船長
(右) Kari Nessa Nordtun ノルウェー教育大臣

撮影:Stine Østb



訪船の様子

(左) 当社執行役員 大西慶
(右) ノルウェー王室 ホーコン皇太子

撮影:Sjur Øverås Knudsen
(場所:Greenland Havn)

公司(Dalian Shipbuilding Industry Co., Ltd.)において竣工し^(注3)、ノルウェーへの回航を完了させました。

Northern Lightsプロジェクトは2025年8月に操業開

始しており、一番船“NORTHERN PIONEER”(ノーザンパイオニア)^(注4)と本船が輸送に従事しています。

(注1) Northern Lights社は、2021年3月にEquinor、Shell、TotalEnergiesの3社の共同出資により設立された会社で、プロジェクトにおいて液化CO₂の輸送と貯留を担っています。

(注2) Longshipプロジェクトは、ノルウェー政府が主導する、産業由来の二酸化炭素(CO₂)を回収・輸送・海底貯留する世界初の国際的なフルスケールCCSプロジェクトです。Northern Lightsプロジェクトは、Longshipプロジェクトの構成要素の一つであり、回収されたCO₂を船で輸送し、北海の海底下に貯留する部分を担っています。

(注3) 2025年1月30日付ニュースリリース
Northern Lights社向け液化CO₂船
“NORTHERN PATHFINDER”が竣工



(注4) 2024年11月26日付ニュースリリース
Northern Lights社向け液化CO₂船
“NORTHERN PIONEER”引渡式を開催



株主アンケート 結果報告

前回の株主通信にて、株主の皆さまを対象にアンケートを実施し、2,440名の皆さまにご協力をいただきました。ここではアンケートの結果の一部をご紹介します。

株主の皆さまの貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございました。いただいたご回答は、今後の情報発信に生かしてまいります。

関心があったページ

決算ハイライト	1,226
特集	940
セグメント別概況	900
社長メッセージ	715
トピックス	539
会社概況	475
株主メモ	324
特になし	69
その他	10

株主通信への記載を希望または充実してほしい情報

株主還元の情報	1,362
業績見通しについての説明	1,227
業績に関する説明	822
中期経営計画等、成長戦略について	758
事業内容や特徴	624
株主アンケート結果	336
トピックス	257
ESG・SDGsへの取組み	157
その他	10

今回も株主メモページ(裏表紙)にて株主アンケートを実施しています。皆さまの声をお聞かせください。

TOPICS ②

風力を活用した自動カイトシステム “Seawing”開発フェーズ1完了

当社がフランスに設立した子会社、OCEANICWING S.A.S. (以下、「OCEANICWING社」)が開発を進めている風力を活用した自動カイトシステム“Seawing”について、開発の第一段階(フェーズ1)が2025年6月に完了しました。フェーズ1では、陸上の試験場で300m²サイズのカイトを使用して張力やシステムの性能検証を行い、良好な結果を確認できました。

2025年7月から更なる技術確立及び実用化に向けて開発の第二段階(フェーズ2)に入っています。フェーズ2では、カイトのサイズを更に大きくして陸上試験場で牽引性能と信頼性の確認を実施します。洋上での利用を見据えた操作性と安全性の評価も行ったうえで、当社が保有・運航する大型ドライバルク船で海上実証実験を実施する予定です。2年程度で試験完了、実用化を目標としており、10%以上^(注)の燃料消費量削減効果を見込んでいます。

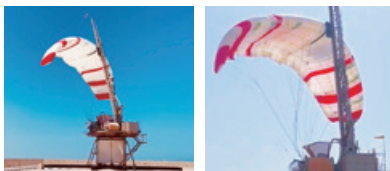
“Seawing”は自然エネルギーである風力を活用し、様々な船種、新造船のみならず既存船にも搭載可能な汎用性

も特徴で、LNG燃料船など燃料転換への取組みとの相乗効果で、CO₂排出量の大幅削減を可能とする省エネ設備です。複数の種類がある風力推進補助装置の中でも“Seawing”は上空の風を使って、単体で得られる推力が比較的大きいのが特徴です。

当社グループは、「K」LINE環境ビジョン2050」に基づき、持続可能な社会の実現と企業価値の向上を目指します。風という再生可能エネルギーを船の推進力に最大限に生かすことで、自社と社会の低・脱炭素化支援への取組みに貢献していきます。

~2025年6月 フェーズ 1	2025年7月~ フェーズ 2	2027年頃
陸上で300m ² サイズの 張力検証	カイトを大型化し、 陸上で牽引性能と 信頼性の確認 その後、 大型ドライバルク船で 海上実証実験	実用化

(注)燃料消費量削減効果は、船型・船速・航路・季節などの条件により変わり、組み合わせによっては10%を大きく上回る効果も期待できます。



陸上試験場での実証試験の様子

実証試験の様子はこちらの動画もご覧ください。



代表執行役社長のコメント

OCEANICWING社で開発を進めている“Seawing”がフェーズ1を完了しました。引き続き船上利用に向けた開発を進め、この革新的な風力利用による省エネ装置を海運業界の低・脱炭素化に大きく貢献するソリューションに完成させる計画です。

代表執行役社長 五十嵐武宣

会社概況 (2025年9月30日現在)

会社概要

商号	川崎汽船株式会社 Kawasaki Kisen Kaisha, Ltd.
本店	〒650-0024 兵庫県神戸市中央区海岸通8番 (神港ビルディング)
本社	〒100-8540 東京都千代田区内幸町二丁目1番1号 (飯野ビルディング)
支店	名古屋、関西
資本金	75,457百万円
上場証券取引所	東京

運航船腹

区分	隻数(単体)
所有船	164(113)
備船	239(218)
合計	403(331)

※所有船の隻数は共有船を含み、備船の隻数は期末時点の短期・スポット備船を含みます。
※上記隻数には、当社が出資するプロジェクト(連結子会社を除く)によって運航される船舶は含まれていません。

大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
イーシーエム エムエフ	92,947	14.56
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	64,146	10.05
エムエルアイ フォー セグリゲーティッド ピーピー クライアント	50,862	7.97
J.P. MORGAN SECURITIES PLC FOR AND ON BEHALF OF ITS CLIENTS JPMSR RE CLIENT ASSETS-SEGR ACCT	31,796	4.98
サンテラ(ケイマン)リミテッドアズトラスティ オブ イーシー エム マスター ファンド	19,716	3.09
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	18,438	2.88
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウント ジエイピーアールデイ アイエスジー エフイーエイシー	17,697	2.77
今治造船株式会社	16,956	2.65
CGML PB CLIENT ACCOUNT/COLLATERAL	15,581	2.44
株式会社みずほ銀行	12,694	1.98

※持株比率は自己株式(1,113,651株)を控除して計算しています。

株式の状況

発行可能株式総数	1,800,000,000株
発行済株式の総数	639,172,067株
株主数	148,567名

従業員の状況

従業員数	連結:5,780名 / 単体:949名
------	---------------------

役員

取締役	取締役会長	明珍 幸一
	取締役	五十嵐 武宣 荒井 邦彦 山田 啓二* 内田 龍平* 小高 功嗣* 牧 寛之* 政井 貴子* 原澤 敦美* 久保 伸介*
執行役	代表執行役社長	五十嵐 武宣
	代表執行役専務	芥川 裕
執行役員	専務執行役員	久保 敬二 岩下 方誠 田口 雅俊 金森 聡 藤丸 明寛
	常務執行役員	中山 久 内田 洋 池田 真吾 玉置 伸哉 杉本 治彦
	執行役員	佐藤 文芳 松井 健一郎 伊東 俊一 遠藤 英明 大西 慶 三上 武志 竹之下 敦

(注)※は、社外取締役です。

株主メモ

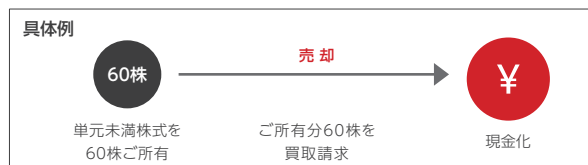
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日 定時株主総会・期末配当 中間配当	3月31日 9月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先 (電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話:0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間:9:00-17:00(土日休日を除く)
住所変更、単元未満株式の 買取・買増等の お申出先について	株主様の口座のある証券会社にお申出ください。 なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。
特別口座から証券会社の 口座への振替申請について	特別口座の株式については、単元未満株式の買取・買増請求を除き、売買ができません。 売買を行う場合は証券会社の口座への振替が必要となります。 お手続の詳細については特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。
未払配当金の 支払いについて	株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申出ください。

単元未満株式(100株に満たない株式)の 買取請求・買増請求について

100株に満たない株式は市場での売買ができません。
当社では、その株式を買い取らせていただく「買取請求制度」と、株主様が不足する株式を買い増し、単元株式(100株)とする「買増請求制度」を導入しています。

買取請求制度(株主様が売却をご希望の場合)

ご所有の単元未満株式(1株から99株)を株主様が当社に対して市場価格で買い取ることをご請求いただく制度です。



買増請求制度(株主様が購入をご希望の場合)

ご所有の単元未満株式と合わせて1単元株式(100株)となるように、株主様が当社から不足分の株式を市場価格にて買い増すことをご請求いただく制度です。



なお、買取・買増請求の場合、当社所定の手数料が必要となります。また、中間及び期末などの基準日の権利確定日前一定期間並びにその他受付停止期間が設定された場合は、買取・買増請求の受付を停止させていただきますので、あらかじめご了承ください。

<https://koekiku.jp>

アクセスキー

株主アンケートにご協力ください

ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を進呈させていただきます。

本アンケートは、株式会社プロネクススの提供する「コエキク」サービスにより実施いたします。
アンケートのお問い合わせ「コエキク事務局」 ☒ koekiku@pronexus.co.jp

川崎汽船株式会社

〒100-8540
東京都千代田区内幸町二丁目1番1号(飯野ビルディング)

<https://www.kline.co.jp>



UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

